

平成20年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2008-A-16

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 地殻活動総合データベースの開発英文: The development of earth crust activity integrated database.4. 研究代表者所属・氏名 東北大学大学院理学系研究科・海野 徳仁(地震研究所担当教員名) 鷹野澄・佃為成

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参 加期間	日 数	旅費 支給
海野徳仁	東北大学大学院理学研究科 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
茂木 透	北海道大学大学院理学研究院 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
小菅正裕	弘前大学工学部 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
三浦 哲	東北大学大学院理学研究科 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
木股文昭	名古屋大学大学院環境学研究科 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
山中佳子	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
大見士朗	京都大学防災研究所 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
植平賢司	九州大学理学部 助教	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
後藤和彦	鹿児島大学理学部 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
高濱 聡	気象庁	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
吉岡敏和	産業技術総合研究所 チームリーダー	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
関口渉次	防災科学研究所 主任研究員	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
島崎邦彦	東京大学地震研究所 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
加藤照之	東京大学地震研究所 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
平田 直	東京大学地震研究所 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
都司嘉宣	東京大学地震研究所 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無

鶴岡 弘	東京大学地震研究所 助教	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
鷹野 澄	東京大学情報学環/地震研究所 教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無
佃 為成	東京大学地震研究所 准教授	データ・資料	2008.4.1~ 2009.3.31	365	無

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：データベース、資料、カタログ

日本列島及びその周辺域を対象として、これまで各大学や研究機関において蓄積されてきた地形、重力、地殻構造、地殻変動、地震活動等の基礎データを整理・統合し、地殻活動予測シミュレーションモデル開発の基礎となるデータベースを開発することを目的とする。本研究は、地震予知のための新たな観測研究計画のうち、「2. 地殻活動の予測シミュレーションとモニタリングの為の観測研究の推進 (3) 地殻活動総合データベースの開発」に資するためのもので、その成果が、予測シミュレーションシステムの構築に活用されることを目指している。本年度は、5カ年の集大成として、日本列島全域の重力マップ (北大)、古い記録のデータベース化 (東大)、地震観測データベースとそれによる3次元地殻構造標準モデルの作成と公開 (防災科研)、活断層データベースの GoogleMap への対応 (産総研)、主要活断層帯図の公表と地殻活動総合解析システム、GPS クリアリングハウスの整備 (国土地理院)、地磁気永年変化データベースの構築 (地磁気観測所)、全国地震カタログと過去にさかのぼった地震カタログの作成 (気象庁) などが実施された。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*¹または2000~3000字の報告書)

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Matsubara, M., K. Obara, and K. Kasahara (2008), Three-dimensional P-and S-wave velocity structures beneath the Japan Islands obtained by high-density seismic stations by seismic tomography, *Tectonophysics*, 454, 86-103, doi:10.1016/j.tecto.2008.04.016. (謝辞への記載無, ポイント3)

「日本列島標準三次元構造モデルの構築」のための共有モデルプラットフォーム (HP) の開設 鶴岡 弘 (東大地震研), 平原和朗 (京大理), 川勝 均 (東大地震研), 地震研・特定共同研究B「日本列島標準三次元構造モデルの構築」研究グループ, 日本地震学会2008年度秋季大会, X1-006. (謝辞への記載無, ポイント2)

Nishida, K., Kawakatsu, H., and S. Obara (2008), Three-dimensional crustal S-wave velocity structure in Japan using microseismic data recorded by Hi-net tiltmeters, *J. Geophys. Res.* VOL. 113, B10302, doi:10.1029/2007JB005395 (謝辞へに記載無; ポイント3)

以上